

【帯広畜産大学・獣医学科5年・アドバンスト演習】

豆作の「のったり俳句ひねもーす」俳句リニック

アシスタント、鈴木麻央さん・直原紬さん

「畜大句会」令和7年2月3日 於・産業動物臨床棟・講義室

〈出句と互選・句評〉

01 帯広の冬がだんだん消えてゆく 男梅

〔評〕地球が温暖化していることを「冬が消えてゆく」と表現したところに鋭さを感じます。帯広という地名を入れて自分に引きつけ詠んでいるのも良いと思いました。（安田豆作）

02 白い朝首が左に曲がらない 一

〔評〕寝違えてしまったのですね（笑）。「白い朝」というのも詩的な表現でとても面白いですが、そのまま「寒い朝」あるいは「雪の朝」や「霜の朝」などとするれば季語が入って俳句らしくなるかと思います。（安田豆作）

03 嬉々として雪踏む牛に十勝晴れ 足寄町

〔評〕牛が元気よく雪を踏んで歩いていく様子がうかぶ。こっちまでうれしくなる感じがするので直感的にいいなと思った。（田中李佳）

〔評〕「嬉々として」という表現が美しいと思った。牛が雪を踏む音が聞こえてきた。（西村弥大）

〔評〕地の風景から空の風景に視点が拡がってゆく感じが良いと思った。（吉岡憲一郎）

〔評〕情景がパツと伝わりやすい。牛と空の二つは遠近感があってよい。（篠崎七海）

〔評〕句をよんだだけでその情景がすぐ浮かぶところに良さを感じた。（藤本彩音）

04 札幌市氷ツルツルまっしろけ ぼむ

(評) 札幌市の実際の様子を思い浮かべることができること。帯広との違いも感じることができた。(藤井あさひ)

(評) 氷ツルツルまっしろけ、の語感が好き。うきうきしているのか、嫌気がさしているのか、想像が膨らむ。(出原詩織)

05 息白し牛で暖とるFSC 十勝の大学生

(評) 自分も冬の実習で牛の直腸に手を入れた時とてもあたたかかったのを思い出してなつかしくなった。(西堀真菜)

(評) 4年生の時の実習で、寒さに耐えながら直検をやったのを思い出した。このとき、牛の脇に手を入れて指先の暖をよくとっていた。(小川勉武)

06 雪原に赤の人影牛の群れ 六つ墓村

(評) 雪の白とツナギや頬の赤の対比が面白いです。「赤の人影」をもう少し具体的に「赤きツナギと」とか「頬染む人と」などとすれば風景が見えてくるのではないかと思いました。(安田豆作)

07 繰り返す出会いと別れ廻る命 詠み人知らずA

(評) 生命を扱う仕事を選んだ獣医学生らしい一句、哲学的なところまで踏み込んだ深い内容です。最後の「廻る命」を「廻る冬」とすれば、俳句らしくなるのかなと思いました。(安田豆作)

08 ほのぼのし質問溢れる冬の日々 S

(評) ほっこり感がとても好きでした。(高橋陽苗子)

(評) 誰からの質問なのか分かるように、上五の「ほのぼのし」を「後輩の」とすると良いかと思いました。後輩からの質問が溢れる事で、ほのぼの感は

出せているかなと思います。(安田豆作)

09 星冴ゆる夜空見上げシラボ帰り 詠み人知らずB

(評) 全く同じシチュエーションをほぼ毎日経験していて共感生んが高かったから。(新垣光美)

(評) 「冴ゆる」「見上げし」の少し古風な表現に対して「ラボ」という外来の短縮形を用いて締めるところにバランスの良さを感じました。収まるところに収めた、整頓された印象。(舟橋弥々子)

(評) 十勝の夜に星が輝く様子が良く表現されていて、私も研究室に夜遅くいるときに同じ感覚があるので共感できた。(小堀玲奈)

(評) 共感できる句だと思いました。(小代智貴)

(評) 作者と同様におそく帰った日に空を見上げて、雲一つない夜空をみると感動することが多々ある。十勝の冬は晴れることが多いためこのような経験は貴重だと思う。(小川勉武)

(評) リズム感がとても良く、とても俳句だ！と感じた。(有村峻輝)

(評) 遅くまで作業に追われ、遅れて帰り道に空を見上げると星のきれいさと冷たい空気にいやされところに共感できました。(田村彩音)

(評) 帯広に来て星がきれいだと思っていたので、とても共感できた。(小畠侑久)

(評) 夜中遅くに研究室から一人帰るときに星空をながめるシーンがとても共感できた。(大竹由希子)

(評) 研究室から帰る姿に共感した。(奥宮壮太)

10 研究室寒さに耐えて夜一人 詠み人知らずC

(評) とても実感がこもったストレートな一句。惜しいのは「寒さに耐えて」というフレーズで説明的になりました。ここは「寒さの中で」として、きつと耐えているんだろうな、と読者に想像させる表現にしたらより良かったかと思います。(安田豆作)

11 冬日高白雪抱きて嶺輝く

フツ素

(評) 私も日高山脈の美しさを詠もうとしたが、上手く詠めなかったので、見事に壮大に表現されていて印象に残ったから。(新垣光美)

(評) 情景が目に浮かび、きれいな様子が想像しやすい句だった。きれいな言葉でまとまっっていてきれいな句だった。(中川知秋)

(評) 冬の十勝の自然が目に浮かんできた。(佐々木夏妃)

(評) 日高の美しさに共感した。(斎藤諄)

(評) きれいな景色がはつきりと思い浮かべることができておしゃれ。(島崎友理)

(評) 十勝から見える日高山脈の美しい嶺がとても想像できた。(小島侑久)

(評) 冬の日高山脈の美しさが表現されており、「嶺輝く」と詠むことで十勝晴れの様子も思い浮かぶように感じる。(黒川有望)

12 朝七時凍る長靴うしのため

詠み人知らずD

(評) 帯広畜産大学の学生らしい一句だと思いました。読むだけで映像が浮かびあがりました。最後の「うしのため」が牛を愛する獣医学生ならではの表現だと思います。(和田あゆみ)

(評) 朝七時になっても、まだ凍り付いている長靴をはいてうしの世話に行く様が想像され、寒い日に働くもの悲しさと、牛への思いやりが入り混じっていると感じました。(大森昭平)

(評) 心情もわかるし、五感も感じられる。詠み手が疑似的な体験ができて良い句。(小島朱吏)

(評) 朝から牛の診療に向かう様子がイメージできた。(斎藤諄)

(評) 牛のために寒い中頑張る姿が表現されていて、心温まる一句だと感じた。(藤本彩音)

13 恋しいわ着雪映える十勝晴れ

雪子(せつこ)

(評) 「恋しいわ」からはじまり、何が恋しいかを考えさせてから、十勝晴れの中の雪が恋しいのだと分かるのが良いと思った。(小堀玲奈)

(評) 講習が終わった後、記録的なドカ雪を呼び込みましたね(笑)。冬は厳しいほど美しいです。樹氷やダイヤモンドダストが恋しくなる気持ち、よくわかります。(安田豆作)

14 札幌でピクミンと化した一ヶ月 TMTM

(評) 自嘲を込めた一句です。私も同じ気持ちになったので選ばさせていただきました。(直原紬)

(評) ピクミンという言葉のポップさとひびきの良さを改めて感じ流ことができ、またポリクリ時の様子も思い出される。(藤井あさひ)

(評) センスある例えがうまい。(小島朱吏)

(評) 不甲斐ない気持ち共感できて良かった。(島崎友理)

(評) 私も札幌でピクミンをしていた。(奥宮壮太)

15 壁は友痛む手首とスケート場 シマエナガ

(評) 内地の人ならではの句だと感じました。椅子ではなく壁という点で。(大森昭平)

(評) 壁は友と表現することで壁にべったりはりついて離れられなかったという表現力がすてきだと思った。(田中李佳)

(評) 自分がスケートをしたときの状況と同じで共感した。壁に手をつき足がぶるぶるしているのがありありと想像できる。(出原詩織)

(評) スケートが苦手ながらもがんばっている様子が想像でき、共感できました。(田村彩音)

(評) 「壁は友」と言い切るのがユニークで面白い。(篠崎七海)

16 梟のほうと鳴く声目を閉じる 詠み人知らずE

(評) 静かな冬の夜に梟の鳴く声、屋内でそれを聞いて眠りにつく人、の情景が浮かんできました。(高橋陽苗子)

(評) 動物と鳴き声示されしみじみとしていた点。(廣岡宙)

17 すきま風はらり頭蓋解剖図

ろっかくじょうぎ

(評) 頭蓋を見つめて何をしているかは分からないがすきま風が吹くような環境で頑張っていると思うと、応援したい気持ちと・何か寂しい気持ちになりました。(大森昭平)

(評) 解剖研の窓がすきま風で寒い中、頑張って勉強してるの応援してるよ。(西堀真菜)

(評) 「頭蓋解剖図」という語呂がとても好き。(藤江大悟)

(評) 獣医学生らしい句、全ての句の中で一番「獣医学生らしい句」を詠んでいるように感じる。(黒川有望)

18 吾は浅く牛らは深く雪を踏む 詠み人知らずF (豆作)

(評) 最初の五音と次の七音でついにあって最後五音でまとめられていること。最後の音で韻を踏んでいることが気持ちがいい。(藤井あさひ)

(評) 漢字とかなのバランスが良い、画像として文字列を見た時空白の配置が好ましいです。「吾」をアと読むと「吾」と「浅く」、「牛ら」と「深く」で頭韻を踏めて綺麗だな〜と感じます。情景が想像しやすい身近なものである点も個人的に好きです。(舟橋弥々子)

(評) 今まで気にならなかったが、確かに人と牛との体重差はあり、そこが盲点だったので発想がすばらしいと思った。(中川知秋)

(評) 「浅く」が物理的な意味だけでなく、学生という立場で知識が「浅い」にもかかってそうでよい。(藤江大悟)

(評) 上句と中句の対比が印象深かったという点。(廣岡宙)

(評) 雪が積もった上を足跡に着目している点がおもしろいと感じました。体重のちがいによって足跡の深さが異なることを実感できました。(田村彩音)

(評) 身近な実体験を素直に表現している。対比がきれいだと思った。(篠崎七海)

(評) 雪を踏む深さで自分と牛の大きさや重さの違いをよく表していて良いと思った。(大竹由希子)

19 先輩の代わりに滑った帰り道 詠み人知らずG

(評) 思いやりのある句で、詠んだ人はいい人だな、と思い選びました。(小代智貴)

(評) この句だけいきなり読むとわかりづらいので、前書きとして「国家試験」とか「進級試験」などと書いておくと良いかと思いました。(安田豆作)

20 授精後に頸管持ちて命祈る 詠み人知らずH

(評) 私も繁殖研でAIをするので絶対についてほしいと願う気持ちに共感しました。(鈴木麻央)

(評) 獣医師ならではの経験で同時に作者の責任感の強さを感じた。(西堀真菜)

(評) 自分の力で新たな命を育む期待を感じることができて良かった。(島崎友理)

21 青葉見ゆ実習の道力湧く 雀

(評) とても前向きで明るく、力強い一句だと感じた。(藤本彩音)

(評) 今回唯一夏を詠んだ生気盛んなこの句から、元気をいただきました。四季折々の風光を大いに詠んでいただきたいと思います。(安田豆作)

22 搾乳後朝焼け滲む日高雪 詠み人知らずI

(評) 情景がすごく浮かびあがる一句でした。私も朝焼けでオレンジ色に輝いた山脈が見れた時には気持ちがあがります。大好きな風景なので共感できました。(和田あゆみ)

(評) 自分もバイト前後に日高山脈のきれいに感動することが多いです。(鈴木麻央)

(評) 奥行きのあるという評価が、なるほどという感じでした。(小代智貴)

(評) 先生が話されていたように遠近感がすごいなと感じた。(有村峻輝)

(評) 日高の美しさに共感した。(斎藤諄)

(評) 搾乳後の少し暗い牛舎と雄大な日高の朝焼けの対比と遠近感が良いと思

った。(大竹由希子)

(評) 私も搾乳バイトをしており共感した。(奥宮壮太)

23 冬の朝ウシの体で暖をとる 詠み人知らずJ

(評) 搾乳でミルクカーをつけた牛で暖をとる様子です。触覚が上手に表現されていて、同じ経験があるのでよいと思いました。(直原紬)

(評) 子牛がちゃんちゃんこを着ているところを見ると「冬が来たな」と改めて感じます。想像した映像にも平仮名が多いのも相まって可愛らしい句だと思いました。(和田あゆみ)

(評) 冬の寒さと暖かさの共存が良いと思った。(吉岡憲一郎)

24 雪が降り音がなくなり陽が沈み 詠み人知らずK

(評) 夕暮れ時はとても好きなのだが、雪とともに音に着目するのは新鮮だったから。(新垣光美)

(評) 「降り」「なくなり」「沈み」で韻が踏めるリズムが良いです。文として締められていなくて少し落ち着かない気持ちになるところも、しんしんと雪が降る夜に抱く寂しさ、不安を想起できて共感性が高いです。お洒落。

(舟橋弥々子)

(評) 上中下3つの句が全て同じ構成で締まっていた点。(廣岡宙)

(評) 句の終わりを全て「るし」という形にすることで流れるように詠むことができる。にぎやかな昼間からの夜への移り変わりがよく表現されているように思う。(黒川宥望)

25 帰路に舞う初歩たる雪より白い歌 ルピス

(評) きれいな句だと思った。「初歩たる」と「ほたる」をかけてをり、テクニクが感じられた。(西村弥大)

(評) レトリックや言葉遊びを取り入れた句として楽しく読ませていただきました、技巧派ですね(笑)。(安田豆作)

26 牛の子もちゃんちゃんこ着て冬構え のぞみ

(評) 牛も人も仕度をするといった様子が描かれています。ほんわかした情景が浮かび良いと思いました。(直原紬)

(評) 「冬構え」というのが、寒さにこれから備えるというのが直感的にいいなと思った。ちゃんちゃんこを着る子牛や、服をちゃんちゃんここと表現することがかわいらしい様子が思い浮かんだ。(田中李佳)

(評) 牛の子だけでなく人もちゃんちゃんこを着ているのが思い浮かぶのが良いと思った。(小堀玲奈)

(評) 牛の子がちゃんちゃんこやネックウオーマーをしている様子が目に浮かび、とてもかわいらしく思ったので選びました。(中川知秋)

(評) 人間も牛も厳しい寒さを乗り越え用途しているのが伝わる。(佐々木夏妃)

(評) 服を着こんで寒さに耐える子牛と人の様子が想像できる、「も」がいい。

(出原詩織)

27 雪原や小枝で刻む「ラボ辞めたい」 詠み人知らず

(評) 頑張ってほしいです。(高橋陽苗子)

(評) 心情、五感を感じる。(小島朱吏)

(評) 俳句は風景ばかりではなく、心の内のネガティブなところも詠めることを示してくれた句として高く評価したいです。(安田豆作)

28 冬帰省母はインフル僕振る舞う 肩痛めたオジ

(評) 息子の母を思う優しい気持ちに素敵だと感じました。(鈴木麻央)

(評) 親孝行があたたかくて良かった。(藤江大悟)

(評) 優しさにあふれた句だった。(小島侑久)

29 牛直検しばれたからだがとけていく 草丸

(評) まさに獣医業ならではの一句で大いに共感しました。「とけていく」が素晴らしく、感性の豊かさを感じました。(安田豆作)

30 戸を開けて牛の香りの冬の朝 るか

(評) 一番共感できた俳句だった。十勝特有の朝なのでしみじみとした。(西村弥大)

(評) 香りが思い浮かんで良いと思った。(吉岡憲一郎)

(評) 帯広に来てから早朝に家を出ると、アパートにまで牛の香りが漂ってきます。この感じをまさしく詠んだ句だと思います。(小川勉武)

(評) 家を出た瞬間に牛の香りが漂っていることが多々あるのでとても共感できました。(佐々木夏妃)

(評) 視覚だけではなく嗅覚にも触れて、かつ自分とすごく実感できることだったので。(有村峻輝)

31 凍る窓東に陽を見手擦り合う 詠み人知らずM

(評) 診療車で早朝の緊急往診をし他時はまさしくこれですね。外の景色は美しいですが、仕事が終わらないとなかなか眺める余裕はないですね。(安田豆作)

〈おわりに〉

このたびはアドバンスト演習において、畜大獣医学科五年生の皆さんの素晴らしい作品の鑑賞と寸評をさせて頂き、誠にありがとうございます。作品ばかりではなく、皆さんそれぞれの句評の視点がユニークで様々な角度から鑑賞することができました。

また、このような機会を作って当初からお世話をしてくださった南保泰雄先生には、心より感謝を申し上げます。

ちなみに、安田豆作は現在二つの俳句の句会を主宰しています。

「かたくり句会」

毎月第2土曜日 午後十三時～十六時 札内南コミセン・和室にて

「豆桜句会」

毎月第4土曜日 午後十八時～二十一時 とかちプラザ3階・305室にて
ご興味のある方は一度ぜひお越しください、大歓迎いたします。

また、畜大の生徒さん同志で自主的に「俳句サークルなどを立ち上げてみたい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、相談に乗ります。ぜひ気軽にお声をおかけください！

豆作の

携帯ショートメール

090-9750-3135

モバイル・メールアドレス

mocking4724@icloud.com

SNSのメッセージャーなどでも受け付けております。

この度は誠に有難うございました。

令和7年2月5日

安田 豆作